



CQM(超短期経済予測モデル)

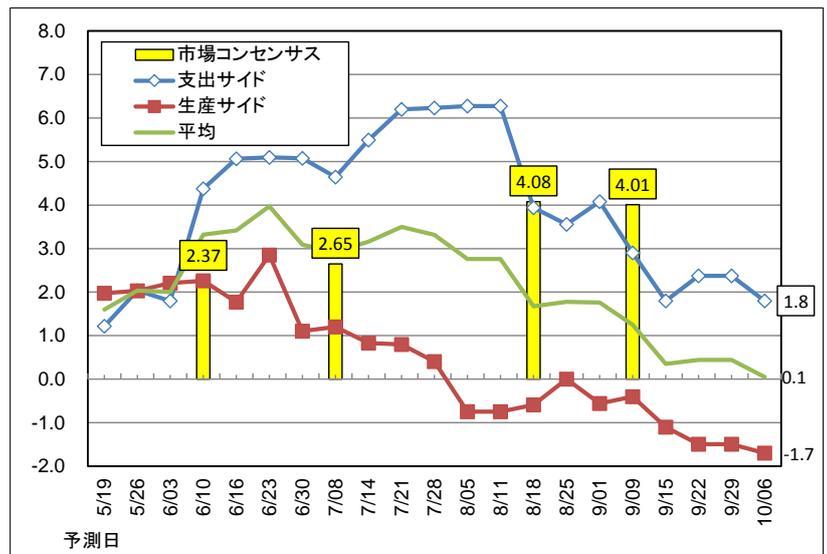
稲田義久 (APIR 数量経済分析センター長)
内容に関するお問い合わせは下記まで
e-mail: inada-y@apir.or.jp

日本経済(週次)予測(2014年10月6日)

ポイント

- ▶先週は統計発表が集中した。一部の9月と多くの8月データが公表された。また日銀短観9月調査結果が発表された。
- ▶8月の建設工事費予定額、資本財出荷指数、最終需要財在庫指数が更新された結果、7-9月期の実質民間住宅及び民間企業在庫品増加の予測値は先週から上方修正。一方、実質民間企業設備の予測値は下方修正された。
- ▶結果、今週の超短期モデル(支出サイド)は7-9月期実質 GDP 成長率を前期比年率+1.8%と予測。先週の予測から下方修正。
- ▶日銀短観9月調査によると、消費増税の影響で業況判断 DI 回復にもたつきが見られた。前回調査の9月見通しから、DIは多くの業種で下振れた。7-9月期のGDP予測と同様景況感は小幅改善にとどまっている。

CQM 予測の動態：実質 GDP 成長率 2014年7-9月期(%, 前期比年率換算)



<9月短観の景況感回復もたつく、7-9月期の景気予測と整合的>

先週は統計発表が集中し、一部の9月と多くの8月データが公表。また日銀短観9月調査結果が発表された。これらは、民間住宅、民間企業設備、民間企業在庫品増加、公的在庫品増加及び雇用者報酬の予測値に影響を与える。

8月の鉱工業生産指数は前月比-1.5%低下した。2カ月ぶりのマイナス。7-8月平均は4-6月平均比-2.4%の低い水準となっている。(7-8月平均の)財別出荷指数を4-6月平均と比較すれば、資本財指数は+2.3%上昇し、耐久消費財指数は-8.5%低下し、非耐久消費財指数は+0.8%小幅高くなっている。

8月の建設工事費予定額(居住専用)は2カ月ぶりの前月比プラス。実績は事前予測を上回った結果、7-9月期の実質民間住宅の予測値は先週から上方修正。8月の資本財出荷指数は2カ月ぶりの前月比マイナス。事前予測を下回った結果、7-9月期の実質民間企業設備の予測値は先週から下方修正。8月の最終需要財在庫指数は6カ月ぶりの前月比マイナス。事前予測を上回ったため、7-9月期の実質民間在庫品増加の予測値は先週から上方修正された。

今週(10/6)の超短期モデル(支出サイド)は、7-9月期の実質 GDP 成長率を前期比+0.4%、同年率+1.8%と予測。先週の予測(+2.4%)から下方修正された。7-9月期は、内需が緩やかな拡大に転じ(前期比+0.4%)、純輸出も小幅拡大する(前期比+0.1%)。日銀短観9月調査によると、消費増税の影響で業況判断 DI にもたつきが見られた。前回調査の9月見通しから、DIは多くの業種で下振れた。7-9月期のGDP予測と同様小幅改善にとどまっている。